

# まち活 11 つうしん

ねほまちづくりセンター

取材 / 2010年1月24日

——白子川源流（大泉井頭公園）を拠点に、水質調査や清掃といった定例活動のほか、今年で9回目の白子川源流まつりでは、近隣の小学生による『白子川調べ学習』の発表会や、白子川グッズ（絵葉書や木製プレートなど）の販売を積極的に行っています。ことし最初の白子川の定例清掃活動。夏の白子川は、ホトケドジョウにフナにザリガニなどいきものたちであふれていましたが、冬の白子川の様子はどうでしょうか？

## 冬の源流には水が…ない？

み、水がない…

ことし最初の川の定例清掃活動。おどろいたのは源流のところに水がないこと。冬は雨がすくないので湧き水も減ってしまうのでしょうか？水のない川底には、たまっている大量のヘドロが姿をあらわし、ごみ掃除のために足を踏みいれると、ずぶずぶとしぶみ込み

ます。

夏の水がある時は、それでもまだ歩きやすかったけれど、水がないと、ヘドロが粘土のように足にまとわりつき、とても歩きにくい…。下流に行くにつれ川の水も増え、歩きやすくなりました。護岸をみると、すき間から地下水がこんこんと湧きだしているのが確認できます。きっと、源流のところ





も、大量のヘドロさえ無くなれば、いたるところから地下水が湧いているのでしょう。

### 自然のたくましさ

下流にむかって川の中のごみ拾いをしていると、「カワセミが護岸にあるパイプに巣をつくって住んでいる」という話を耳にしました。そういえば一度だけ、白子川の上をすべるように一直線に飛んでいる姿を見掛けたことがあります。まさか白子川のパイプのなかに巣をつくって住んでいるとは思いませんでした。自然のたくましさを感じる一方、ちょっと切ない気持ちになりました。

ました。

### 橋の下の吸いがら

橋の下はタバコの吸いがらだらけ。夏の水量が多い時には全く気づきませんでした。橋の上は見晴らしがよいので、そこで吸いたくなる気持ちはわからなくもないけれど、その吸いがらを今まで気持ちよく眺めていたであろう川に捨ててしまえるのはなぜ？と考える方がおかしいと思うほど、本当にたくさん捨ててあることに驚きました。

### いよいよ活動10年目！

年のはじめの活動の締めは、お酒とお

しるこ！昨年もしかこの場所で、みんなで食べたり飲んだりしました。昨年とはまた少し顔ぶれが変わったのがさびしくもあり、うれしくもあり。きっとこれからもたくさんの方が、この場所で出会います。

今年はこの会ができて10年目、源流まつりも10回目の節目の年。来年はまたこの場所で、お酒とおしるこを手にとんな話をするのでしょうか。その時には水を満々とたたえた、冬の源流を見ながらだと嬉しいですね。

## 第9回 白子川源流まつり

10月の日曜日。天気はびかびかの晴れ。大泉学園から歩いて20分。商店街を抜けてしばらくすると、電柱に「白子川源流まつり」の掲示板を発見。時々目にする「みんなの白子川」の木札を横目に、住宅街を抜けて坂を下ると、白子川に突き当たります。やってるやってる！子どもたちの元気な声が響いてきます。

いつもは畑と源流を眺めながらのんびり過ごす大泉井頭公園も、今日はたっくさん子どもや大人で大賑わい。白子川グッズの販売やトーク&トーク『源流談議』、それから大泉南小学校4年生の白子川についての発表もあり、見ごたえも満点です。

川を定期的に清掃したり、小学生に学習する機会を与える、そんな地道な活動があるからこそ、1000人も呼べちゃう盛大なおまつりが実現しているのですね。

## 団体さん、今日を振り返る。 活動メンバー菅沢さんのお話

大泉には、湧水を源流とする白子川という宝がある。この、かけがえのない貴重な自然に偶然めぐり合わせた私たちが、「ありがたい」という気持ちを込めて守らせていただいているのだと思う。ザリガニは子どもらを喜ばせ、カワセミは散歩する人をなごませ、魚は故郷の小川を思い出させてくれる。だから、いきものと人が交流し合って『みんなの白子川』なんだろう。



川底やブロックの隙間から水が湧いています



## 活動団体基本データ

### 設立

2001年6月

### 活動テーマ

白子川源流（区立大泉井頭公園）及び周辺地域の水辺環境の保全・改善に取組む中で、①自然を大切にすること②人と人が手をつないでいくことの大切さ③「湧き水のまち」に気づき大切にすることなどを、啓発していく

### 活動実績

- ・川の清掃、水質水量調査、生きもの調査（月1回）
  - ・「1000人の川まつり（白子川源流まつり）」の開催（毎年）
  - ・小学校の総合学習に毎年参加
  - ・自己資金づくりのための「商品（プレート・絵はがき・竹炭など）」のラインナップ
- ホームページ  
www.geocities.jp/sirako\_river/  
団体連絡先  
suga-lohas@jcom.home.ne.jp  
03-3923-8430（普及）

## 団体拠点案内



### 活動場所

大泉井頭公園  
（東大泉7丁目34）

## 練馬まちづくりセンター

発行日 2010年3月8日  
取材／編集 練馬まちづくりセンター  
デザイン 濱祐斗〔BEACH〕  
発行元 (財)練馬区都市整備公社 練馬まちづくりセンター  
練馬区豊玉北5-29-8 練馬センタービル3階  
Tel 03-3993-5451 Fax 03-3993-8070  
Email machi@nerimachi.jp Web http://nerimachi.jp

練馬まちづくりセンターは、練馬区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために、区民の主体的なまちづくり活動を支援するとともに、区民・事業者・行政から独立し連携を図る、中間的な立場から協働型まちづくり事業を実践する組織です。

## これからの展望

### 当会設立

### 10周年に向けて

活動で得られたことを一つの成果物にまとめて発刊し、地域のみんで共有したいと思います。①湧水についての貴重なデータ、②白子川の生物の生態、③都市河川としての白子川のさまざまな姿、④地域の多くの人々との出会いと共感の共有、⑤市民活動の楽しさと辛さの実感……これらが、次の10年へのステップとなることを願っています。

### 今後こんなグループとつながりたい!

ゴミフォーラム／中村小グリーンキーパーズ

## 活動メンバー紹介

### 鈴木一彦さん



会の活動への参加率は100%に近く、熱心なベテラン会員。年3回発行の会報を50軒に各戸配布してくれている。キノコには結構詳しい。

### 池野明男さん



自称「エコロロ」（タガログ語で「エコ爺さん」）。会報に執筆の『大泉に越した頃の話』は好評連載中。昔の大泉が興味深く書かれている。

他にもたくさんの方がいらっしゃいます！是非活動をのぞいてみてくださいね。

練馬まちづくりセンターは“まちづくり活動助成事業”で、白子川源流・水辺の会を応援しています。

まちづくり活動助成事業とは、区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために取り組む、区民主体のまちづくり活動への支援を目的としています。



【はばたき部門】助成金額30万円以内

身近な生活空間の保全改善等のために取り組むまちづくり活動への助成



【テーマ部門】助成金額1年目10万円以内 2年目50万円以内

身近な場所で生き物と呼ぶ空間をみんなで楽しみながら創り出す活動への助成



【たまご部門】助成金額3万円以内（年中受付しています）

上記2つの部門の様なまちづくり活動を始める、きっかけづくりや学習会などを開催するための助成